

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400317		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームとみおか 1Fせせらぎ		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	令和1年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190400317-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190400317-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和1年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかで静かな落ち着いた住宅街の一角に位置しており、ホームの外では近隣周辺の子供たちの遊ぶ声が聴こえる環境の下、入居様も穏やかにのんびりと過ごされています。ホーム内においては、家庭的な雰囲気とふれあいを大切に、入居者様の想いや気持ちを尊重し安心した生活が出来るよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームとみおか」は、バス停やJR稲積公園駅から徒歩圏内の静かな住宅地に立地しているグループホームである。開放感のあるリビングから全体を見渡すことができる造りで、利用者は窓際の大きなソファ席でゆっくり寛げるようになっている。壁には利用者と一緒に作製した季節感のあるクリスマス作品も飾られている。共用空間に新しく空間除菌消臭加湿器を設置し、利用者が健康に過ごせるように配慮している。管理者は日頃から職員の提案や意見に耳を傾け、全職員で各利用者の適切なケアについて活発に情報交換しながら、一人ひとりの利用者が穏やかにその人らしい生活を送れるように個別ケアに取り組んでいる。身体状況の変化により車椅子利用者も多くなり、遠方に出かけることも難しくなっているが、敷地内や近くの川沿いを散歩したり近隣住民のサポートを受けながら畑での野菜作りや収穫を楽しんでいる。また、バンド演奏や歌、ギター演奏などのボランティアを活用して外部の方々と交流する機会を積極的に設けている。入浴支援では、全身を温めながらシャワー入浴ができるように温浴シャワーチェアを新たに導入している。排泄の自立支援面でも、個々の状態を把握しながら昼夜とも可能な限りトイレでの排泄を支援するなど、全職員で全てのケアに熱心に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有出来るように各ユニット内と玄関に提示。職員や来訪者の方々の目にも触れるようにし、常に意識しながら実務の反映できるように努めている。	「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切にす」という地域密着型サービスを意識した事業所独自の基本理念を作成し、カンファレンスや利用者との関わりの中で確認している。新人研修では、書面を用いて説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の街路の花植えの行事に参加させて頂いたり、事業所の花壇での種まきや収穫を一緒に行っている。又、週に一度ホームの駐車場を開放し、コープの訪問販売車が来て、町内の皆様の交流の場としている。	利用者の身体状況の変化により地域行事に参加するのが難しくなっているが、バンド演奏や歌の会、ギター演奏など多くの音楽に触れる機会をつくり、ボランティアの方々と交流している。職員を通して、新たに保育園との交流も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、御家族や町内会や地域包括センター等に状況報告や認知症ケアの理解や支援方法の説明や話し合いを行い取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に会議を開催し御家族や町内会、地域包括支援センターに参加して頂き、日常報告等の情報交換を行い、そこでの意見等を含めその後のサービス向上に活かす事が出来る様に努めている。	家族の参加を得て事業所報告や職員の研修体制、防災など状況に応じて意見交換しているが、行政や町内会の参加が得られない回も多く見受けられる。今後は、会議案内にテーマ記載も検討し、参加できない家族の意見も活かしたいと考えている。	地域包括支援センターや町内会関係者が会議に参加する回数を増やせるように、継続的な働きかけを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市と手稲区の管理者会議に参加し、事業所からもケアサービスの取り組みを伝え、又、地域包括支援センターに運営推進会議に参加して頂き、情報交換・共有に努め協力関係づくりに取り組んでいる。	管理者は、制度の確認をしたり転居直後の入居について市役所に相談している。また、介護保険の更新やおむつサービスの手続きなどで区役所を訪れている。書類は可能な限り持参して、情報交換しながら連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外、内部の研修を通じて職員の意識と理解を高める取り組みを行っている。職員間では不適切なケアに至る事のない様にお互いに現場や会議、カンファレンス等で確認しあいながら取り組んでいる。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、年2回内部研修を実施している。管理者を中心に「不適切ケア委員会」を3か月ごとに開催し、拘束や不適切ケアについて再確認している。気になる言葉かけがあれば職員同士で注意し合うこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に研修棟に積極的に参加し職員の理解を高める取り組みを行う様に努めている。職員同士での話し合いを行い、注意を払っている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修や勉強会に参加し、理解を深めていき活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に、不安や疑問点について理解され納得が頂けた上で契約を頂けるように十分な説明を行っている。改定時は法人からの書面や御家族の来訪時にも説明し対応し取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に職員から声掛けを行う様にし、話しやすい雰囲気作りに努め、日頃の御様子をお伝えし、御意見を伺えるように心掛けています。また、玄関に御意見箱を設置し、御意見等があった場合は検討し運営に反映出来る様に努めている。	家族の来訪時に利用者の様子を伝え、対応や思いを聞き取り職員間で情報を共有している。今後も、「ご家族様連絡表」に継続して職員の気付きを記載したいと考えている。行事の開催を案内し、開催後に写真入りの個別だよりを発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務を通じて、常日頃よりいつでも面談を実施する機会を設けている。また、面談以外でも意見や提案が出来る機会を申し送りや会議で設け、運営に反映される様に努めている。	管理者は、カンファレンスや日常業務の中で職員と話しをする機会を作り、個々の思いを聞き取るように努めている。書類の記録方法やケアの方法について意見交換したり、職員の意向を確認して、外部研修への参加やシフト調整などを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の向上を図れるよう常に様々な働きかけや取り組みを行っている。法人内においては、定期昇給や勤務年数での表彰、また資格に応じたの昇給等、職員がやりがいの持てるような条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修にて個々に合わせた研修が実施され、その他にeラーニングを使用し職員のスキルアップに繋がる様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修や法人内の研修会や会議を通じて交流を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人との会話の機会を設け、希望を理解し、状況の把握に努め、安心して頂ける関係作りを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談や見学時の段階で不安な事や困っている事、または要望等に耳を傾け、入居後は御本人の御様子や細やかな変化等を報告する事で信頼関係が築ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族が必要としている事柄を見極めて、優先順位を御相談しながら対応し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の想いを尊重したケアを心掛け実施しながら、時間を掛けて信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に居室で御一緒に過ごして頂く時間を大切に、日頃の御様子や対応について細かく御報告する等、お互いに情報交換を行いながら、御家族と共に御本人を支えていく姿勢を忘れずに家族間との信頼関係を築ける様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御友人や知人の方が気軽にいつでも来訪や連絡が出来る様、電話やお手紙での対応を支援し、関係が継続できる様に支援している。	幼馴染みの方や家族の知人などが来訪したり、遠方の知人、友人などから電話や手紙が届く利用者もいる。家族と自宅に帰ったり、結婚式やお墓参り、外食などに出かけることもある。職員と一緒に買い物や近くの温泉に出かけたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を見極め把握し、トラブルの無い様に調整役となり、各自が関わりが持てるように支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じた相談には随時対応し、良好な関係を継続し、支援が行えるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や生活の関わりの中から、御本人の思いや希望、真意を汲み取る様に心掛けており、困難な場合は言動や表情から真意を汲み取る様に努めている。	可能な限り、本人の思いや意向を会話の中から把握できるように問いかけ方を工夫している。センター方式シートを活用し、趣味や嗜好などの変化も随時追記し情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族から以前の生活や生活環境等の情報を聴かせて頂き、支援に必要な情報を把握・共有しケアに活かせる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の関わりの中で、状態の変化が見られた場合は、介護記録や申し送り等で状況を把握し共有する様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議を行い、職員全員の意見を集計し検討を行っている。また御家族を通じて御本人の思い等の情報を共有し、現状に合った介護計画が作成できる様に努めている。	計画作成担当者を中心に3か月ごとにサービス内容に沿って評価を行い、介護計画を作成している。今後は更に評価を活かし、介護計画の1表に家族と本人の思いを具体的に記入していきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にパソコンとipadで記録・管理しており、情報を直ぐに共有できる環境が整っている為、介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人・御家族の様態や状況に合わせて、個別に対応し柔軟な支援に繋がる様に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域包括支援センター等の協力をお願いし支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が月2回健康管理を行っており、状態に応じて他の専門医の受診対応を行い、適切な医療を速やかに行える様に支援している。	かかりつけ医を継続している方もおり、状況に応じて職員が送迎を支援しながら受診に同行している。家族と専門医を受診する時は、健康状態の記録を渡すこともある。「病院受診記録」に、往診と受診を個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃より訪問看護師に協力を仰ぎ、健康管理や状態の変化を報告し相談やアドバイスを頂きながらそれを実践し、特変時は主治医や看護師と連絡を取り対応し適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換を行いながら、早期退院に向けて調整を行い、入院中の状態を把握し、退院後も安心して生活出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期について十分な説明を行っている。重度化が見込まれる場合は、早い段階で御家族と話し合い、御本人と御家族の意向を踏まえながら、御一緒に検討し、今後の方針の情報共有に努め、支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、事業所として可能な対応について説明している。体調変化に応じて、主治医の判断の下に家族と方針を共有し、退去後の施設などの相談にも応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを職員全員で把握に努めている。初期対応等に関して定期的に研修や話し合いを行い冷静に対処できる様に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した防災・避難訓練を年2回実施している。職員全員が避難誘導員になれる様に心掛け、町内会にも協力の依頼を行っている。また今後は地震・水害についての訓練も行っていきたい。	昼夜の火災を想定した避難訓練を年2回実施し、うち1回は消防署の協力を得ている。地震時のケア別の対応について話し合い、記録をマニュアルに綴ることも検討している。職員の救急救命訓練の受講は期間が空いている職員も見受けられる。	計画的に職員の救急救命訓練の受講を進めるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人の尊厳やプライバシーに留意し言葉かけや対応を常に意識する様に努めている。また職員同士で不適切な言葉かけについて話し合い意識を高める様に心掛けている。	法人研修システムを活用し、認知症対応で言葉遣いなどを学んでいる。親しみを込めながらも馴れ合いにならないよう注意している。申し送りは事務所でを行い、個人情報適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いや希望を傾聴し汲み取りながら、自己決定できるように働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや生活リズムを大切にし、日課の流れに縛られる事の無い様に御本人を中心に考え、出来る限り希望に沿えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人なりの個性を大切にし、毎日の整容にも配慮して個々に合わせた支援を行っている。また、毎月、訪問理美容サービスに来て頂き、それぞれがご自身の希望でカットや髪染めをされている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割を持って頂きながら準備や後片付けのお手伝いをして頂いている。お手伝い中も入居者様同士が協力され会話を楽しみながら行われている。食事中は職員も会話をしながら一緒に食事をし、お楽しみ頂ける様に努めております。	献立を基本に調理方法を変更することもある。誕生日には赤飯やちらし寿司を献立に取り入れている。ユニット合同で流しソーメンを行い、1～2か月ごとのケーキバイキングは好評である。利用者は盛り付けや後片付けに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成しており、バランスの整った食事を提供しています。水分摂取量も全職員が把握し、1日に必要な水分量は個別に対応し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じたケアの支援や介助を行っている。また訪問歯科医協力の下、口腔状態の清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握しながら、常に職員同士で情報を共有し、可能限りトイレでの排泄の自立に向けての支援を行っている。	排泄状態を記録し、昼夜間ともほぼ全員がトイレで排泄ができるように支援している。2人介助で行うこともある。トイレ回数が多い時には、間隔を見て声かけや誘導を行い、失敗なども少なくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンや水分摂取量と照らし合わせてトイレ誘導を行ったり、牛乳・ヨーグルト等の乳製品を提供する等、自然排便に繋がる支援を行っている。また訪問診療医に相談し下剤の調整を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状況の変化に対応し、個々に合わせてゆっくりと入浴を楽しんで頂ける様に努めている。入浴拒否があった場合は無理せず、声掛けやそのタイミングを工夫したり、日にちを変更する等、ご希望に沿える様に努めている。	毎日、午後の時間帯に週2～3回の入浴を支援している。身体的な状態から、温浴シャワーチェアで全身を温めながら入浴する方もいる。一人ずつ浴槽の湯を交換し、入浴剤の色を楽しみながら職員と会話をして気持ちよく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣に配慮し、休息が取れる様な環境を整え、夜間帯に安眠が出来る様に日中帯の活動等を考慮し、個々に合わせたケアを行うように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を職員間で常に把握し、服薬方法等の工夫を検討し誤薬を防ぐ様々な手段を話し合い取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の生活歴や現在の状態や状況を把握し、職員間で話し合いながら、個々のニーズに合った役割分担や楽しみ、気分転換に繋がる支援が行える様に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族との外出の支援は常時行っている。季節ごとの変化に対応し、可能な限り個別での散歩やホーム駐車場横の畑の見学や収穫等を職員と一緒にできる様に支援している。	車椅子利用者も公園を散歩したり、玄関先でお茶やアイスクリームを食べて外気に触れている。天候を見て、ほぼ毎日屋外に出て畑を眺め、収穫を楽しんでいる。河川敷の桜の花を見に行き、外出時には車窓から季節の花々を見学している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人が金銭を所持しておらず、事務所にて金銭の取り扱いを行っている。買い物の際は支払いも職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望に沿っていつでも電話が出来る様に対応し支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースであるピングは全てを見渡す事ができ、全ての居室から行き来し易い造りになっており、同じ空間にあるカウンターキッチンに入居者様からも間近にあり、料理の音や生活音等を直に感じられる様になっています。共有スペースが一つの大きな空間になっており、ゆったり過ごして頂ける様になっています。また季節感のある装飾や日付を解り易い様にしています。	リビングから全体的に見渡すことができ、開放感のある造りになっている。大きなソファ席が設けられており、寛げる場になっている。車椅子で可能な4か所のトイレは、隣接の部屋と共有し、リビングから見えない奥に配置してある。壁には利用者で作製したクリスマス作品が飾られている。新しく設置した空間除菌消臭加湿器で健康にも留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の身体状況に合わせて居場所を設ける工夫をし、そこで孤立しない様に考慮しながら支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から使い慣れた物や馴染みの物を取り入れて頂き、落ち着いて安心した生活をして頂ける様に支援している。また、御本人の状態の変化に伴い、家具等の配置を御本人や御家族と相談して、安全にも考慮した居住空間造りをしている。	居室には造り付けのクローゼットが備えてあり、整頓された広い空間には、古いタンスやソファなど馴染みの物が持ち込まれている。姿見鏡、化粧品や家族の写真をコーナーに飾り、大きな縫いぐるみを傍に置くなど寛げる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内バリアフリーで、入口から全ての居室や共有スペースのリビング、キッチンを見渡せる環境で、一つの大きな空間になっており、解り易い造りになっています。移動時は随所にある手摺の使用や、トイレ内にも手摺があり、安心して暮らせる環境下にあります。		



### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400317		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームとみおか 2Fそよかぜ		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	令和1年12月4日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかで静かな落ち着いた住宅街の一画に位置しており、ホームの外では近隣周辺の子供たちの遊ぶ声が聴こえる環境の下、入居様も穏やかにのんびりと過ごされています。ホーム内においては、家庭的な雰囲気とふれあいを大切に、入居者様の想いや気持ちを尊重し安心した生活が出来るよう支援しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190400317-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190400317-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有出来るように各ユニット内と玄関に提示。職員や来訪者の方々の目にも触れるようにし、常に意識しながら実務の反映できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の街路の花植えの行事に参加させて頂いたり、事業所の花壇での種まきや収穫を一緒に行っている。又、週に一度ホームの駐車場を開放し、コープの訪問販売車が来て、町内の皆様の交流の場としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、御家族や町内会や地域包括センター等に状況報告や認知症ケアの理解や支援方法の説明や話し合いを行い取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に会議を開催し御家族や町内会、地域包括支援センターに参加して頂き、日常報告等の情報交換を行い、そこでの意見等を含めその後のサービス向上に活かす事が出来る様に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市と手稲区の管理者会議に参加し、事業所からもケアサービスの取り組みを伝え、又、地域包括支援センターに運営推進会議に参加して頂き、情報交換・共有に努め協力関係づくりに取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外、内部の研修を通じて職員の意識と理解を高める取り組みを行っている。職員間では不適切なケアに至る事のない様にお互いに現場や会議、カンファレンス等で確認しあいながら取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に研修棟に積極的に参加し職員の理解を高める取り組みを行う様に努めている。職員同士での話し合いを行い、注意を払っている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修や勉強会に参加し、理解を深めていき活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に、不安や疑問点について理解され納得が頂けた上で契約を頂けるように十分な説明を行っている。改定時は法人からの書面や御家族の来訪時にも説明し対応し取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に職員から声掛けを行う様にし、話しやすい雰囲気作りに努め、日頃の御様子をお伝えし、御意見を伺えるように心掛けています。また、玄関に御意見箱を設置し、御意見等があった場合は検討し運営に反映出来る様に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務を通じて、常日頃よりいつでも面談を実施する機会を設けている。また、面談以外でも意見や提案が出来る機会を申し送りや会議で設け、運営に反映される様に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の向上を図れるよう常に様々な働きかけや取り組みを行っている。法人内においては、定期昇給や勤務年数での表彰、また資格に応じての昇給等、職員がやりがいの持てるような条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修にて個々に合わせた研修が実施され、その他にeラーニングを使用し職員のスキルアップに繋がる様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修や法人内の研修会や会議を通じて交流を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や見学時の段階でご本人の希望や不安な事、困っている事を確認し、入居後も同様に耳を傾け信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時に困っている事や不安な事、要望等に耳を傾け、入居後も御本人の日常の御様子を報告しご家族と共有する事で信頼関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の意向を確認し、ニーズを把握し支援の方法を見極め、必要としているサービスを実施出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事を把握し、お手伝いやレクリエーションを通し役割、やりがいを持って頂き、職員と一緒に会話を交わしながら行う事でお互いの関係性が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に日々の暮らしのご様子、変化や気づき等の近況をご報告し情報を共有すると共に、ご家族のご要望に耳を傾け御本人を支えていける関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御友人や知人の方の来訪や、お手紙やお電話での連絡が出来るよう支援し関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、個々の関係性や生活スタイルを尊重し各自が関わり支えあえるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じご相談等に随時対応し、良好な関係を継続し出来る限りの支援が行えるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で御本人の表情や言動から思いや希望を汲み取れるよう心掛け、出来る限り御本人本位に検討するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族からこれまでの生活スタイルや生活歴等の情報を聴かせて頂き、支援に必要な情報を把握し、職員間で共有しケアに活かせる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で状態の変化が見られた場合は、介護記録や申し送り等で職員間で状況を把握し共有出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議を行い、御本人の意向や御家族のご要望を尊重しながら職員間で意見を出し合い検討し、御本人にとって必要とされるケアプランの作成を心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にパソコンとipadで記録・管理しており、情報を直ぐに共有できる環境が整っている為、介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人・御家族の様態や状況に合わせて、個別に対応し柔軟な支援に繋がる様に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域包括支援センター等の協力をお願いし支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が月2回健康管理を行っており、状態に応じて他の専門医の受診対応を行い、適切な医療を速やかに行える様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃より訪問看護師に協力を仰ぎ、健康管理や状態の変化を報告し相談やアドバイスを頂きながらそれを実践し、特変時は主治医や看護師と連絡を取り対応し適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換を行いながら、早期退院に向けて調整を行い、入院中の状態を把握し、退院後も安心して生活出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期について十分な説明を行っている。重度化が見込まれる場合は、早い段階で御家族と話し合い、御本人と御家族の意向を踏まえながら、御一緒に検討し、今後の方針の情報共有に努め、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを職員全員で把握に努めている。初期対応等に関して定期的に研修や話し合いを行い冷静に対処できる様に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した防災・避難訓練を年2回実施している。職員全員が避難誘導員になれる様に心掛けている。町内会にも協力の依頼を行っている。また今後は地震・水害についての訓練も行っていきたい。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人の尊厳やプライバシーに留意し言葉かけや対応を常に意識する様に努めている。また職員同士で不適切な言葉かけについて話し合い意識を高める様に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いや希望を日々の生活の中で出来る限り汲み取り、自己決定できる様に働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムを大切にし、日課の流れに縛られる事の無いよう出来る限り希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みを考慮し、その日に着る服と一緒に選びおしゃれを楽しんで頂けるよう心掛けている。また、毎月訪問理美容サービスに来て頂き、それぞれご自分の希望でカットや染髪をされている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も会話をしながら一緒に食事をし、楽しめる時間になるよう努めている。また、食後の食器洗いや食器拭きのお手伝いを毎食後に行っており、入居者様同士協力されながら取り組まれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成しており、バランスの整った食事を提供しています。水分摂取量も全職員が把握し、1日に必要な水分量は個別に対応し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じたケアの支援や介助を行っている。また訪問歯科医協力の下、口腔状態の清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、声掛けにも可能限りトイレでの排泄の自立に向けての支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト等の乳製品を提供する他、運動や水分摂取量の把握をし自然排便に繋がる支援を行っている。状況により訪問診療医に相談し下剤の調整を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御本人のペースに合わせてゆっくりと入浴を楽しんで頂ける様に努めている。入浴拒否があった場合は声掛けや対応を工夫したり、日にちを変更する等、ご希望に沿える様に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活パターンやリズムに合わせて、ご自分のペースで休息が取れるよう環境を整えている。また、夜間に安眠出来るよう日中帯の活動を考慮し不眠に繋がらないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を職員間で常に把握し、誤薬防止の方法を話し合い徹底するよう努めている。薬の変更時には常に状態観察をし把握に努めるよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の生活歴や現在の状態や状況を把握し、職員間で話し合いながら、個々のニーズに合った役割分担や楽しみ、気分転換に繋がる支援が行える様に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族との外出の支援は常時行っている。季節ごとの変化に対応し、可能な限り個別での散歩やホーム駐車場横の畑の見学や収穫等を職員と一緒にできる様に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人が金銭を所持しておらず、事務所に金銭の取り扱いを行っている。買い物の際は支払いを職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望に沿っていつでも電話が出来る様に対応し支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースであるピングは全てを見渡す事ができ、全ての居室から行き来し易い造りになっており、同じ空間にあるカウンターキッチンに入居者様からも間近にあり、料理の音や生活音等を直に感じられる様になっています。共有スペースが一つの大きな空間になっており、ゆったり過ごして頂ける様になっています。また季節感のある装飾や日付を解り易い様にしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居様一人ひとりが安心して過ごせるようスペースを確保している。状況に合わせ席を移動し他入居者様との交流を図れるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から使い慣れた物や馴染みの物を取り入れて頂き、落ち着いて安心した生活をして頂ける様に支援している。また、御本人の状態の変化に伴い、家具等の配置を御本人や御家族と相談して、安全にも考慮した居住空間造りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内バリアフリーで、入口から全ての居室や共有スペースのリビング、キッチンを見渡せる環境で、一つの大きな空間になっており、解り易い造りになっています。移動時は随所にある手摺の使用や、トイレ内にも手摺があり、安心して暮らせる環境下にあります。		



目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームとみおか

作成日：令和 2年 1月 7日

市町村受理日：令和 2年 1月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	計画的に職員の救命救急訓練の受講ができていない。	救命救急訓練を全職員を対象に期間を定めて受講できるように日程を調整していく。	救命救急の研修日等をHP等で調べ、日程を調整する。	6ヶ月
2	4	地域包括支援センターや町内会関係者が運営推進会議に参加する回数を増やせるように継続的な働きかけができていない。	地域包括支援センターや町内会関係者の方の会議への参加の回数を増やして頂く。	運営推進会議の開催日をお手紙やお電話等で早期にお知らせする等、今以上に普段から情報交換等で連絡をし、継続的、且つ積極的に参加を促しお願いするように努める。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。